



宇和島伊達家家紋（竹に雀紋）について

竹に雀紋は、伊達政宗の祖父晴宗の時代から伊達家の紋として用いられ、宇和島伊達家においても初代伊達秀宗以来現在まで代々重んじている紋である。伊達家の紋には他に豎三引両紋・九曜紋などがあるが、とくに陣幕には竹に雀紋のみを用いると定めており、これは戦に生きる武家としての伊達家の誇りがこの紋に込められていることを意味する。

江戸時代以後、仙台・宇和島・吉田の伊達家が竹に雀紋を家紋として用いたが、竹・笹・露・雀のデザインに違いがあり、宇和島伊達家の竹に雀紋は、他との区別からとくに「宇和島笹」と称されている。「竹に雀」はとりあわせの良さにもたとえられ、また竹笹で象られた丸形のなかには口を開けた「阿」形と口を閉じた「咩」形で向かい合う二羽の雀が配されるが、「阿咩」は相対する二つのもの、あるいはそれらを包摂する万物の根源の象徴であるとされている。